



制作

奄美自然体験活動推進協議会
環境省奄美野生生物保護センター

2009年3月初版発行

2014年3月第三版発行

2023年3月第四版発行

写真協力

常田 守
川口秀美

参考文献

時を超えて生きる アマミノクロウサギ (小学館 写真と文: 浜田太)
奄美の希少生物ガイド I (南方新社 著者: 勝廣光)
日本の野生動物5 生きた化石 アマミノクロウサギ (汐文社 著者: 桐野正人)
奄美群島の自然史 亜熱帯島嶼の生物多様性 (東海大学出版部 著者: 水田拓)
奄美の野鳥図鑑 (文一総合出版 編: NPO 法人奄美野鳥の会)
琉球弧 野山の花 (南方新社 監修: 大野照好 写真と文: 片野田逸郎)
原色日本甲虫図鑑 II (保育社 編著: 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝)

引用文献

挿絵で見る「南島雑話」(財団法人奄美文化財団 著者: 鹿児島県立大島高等学校南島雑話クラブ)



わきやあまみ⑧
アマミノクロウサギブック

もくじ

| | |
|-------------------|----|
| ● はじめに | 2 |
| ● どんな生きもの？ | 3 |
| ● どんな体をしているの？ | 4 |
| ● なぜ奄美にしかないの？ | 5 |
| ● 島のどこにいるの？ | 6 |
| ● どんなすみかに住んでいるの？ | 7 |
| ● 何を食べているの？ | 9 |
| ● どんなフンをするの？ | 10 |
| ● アマミノクロウサギが減った原因 | 11 |
| ● 守るためにはどうすればいいの？ | 15 |
| ● おまけ 奄美群島の生きものたち | 17 |

はじめに

奄美群島に住んでいる方々で、アマミノクロウサギという生きもの名前を聞いたことがない人は一人もいないでしょう。でも、この動物が生息している奄美大島や徳之島の人でも、実際に生きたすがたを見たことがある人は案外少ないかも知れません。それでもその名前をみんなが知っているのは、アマミノクロウサギが奄美群島の自然環境を代表するシンボルだからだと思います。

アマミノクロウサギのくらしぶりについては、図かんやインターネットで調べてもあまりわかりにくいことがありません。何頭ぐらいいるのか、減っているのか増えているのか、どのように繁殖するのか、正確にはわかっていないことの方が多いのです。そのようになぞだらけの動物であることも、アマミノクロウサギの魅力の一つなのかも知れません。

奄美自然体験活動推進協議会と環境省奄美野生生物保護センターでは、「わきやあまみ」第8弾として、「アマミノクロウサギブック」を制作しました。最新の調査結果などからアマミノクロウサギの現状をわかりやすく解説した一冊です。この「アマミノクロウサギブック」を各学校やご家庭で活用していただき、自然環境や野生生物への関心を高めていただければと思っています。



あまくろです。
これから
アマミノクロウサギ
について、いっしょに
勉強しよう！



どんな生きもの？

「アマミノクロウサギ」という名前はよく聞きますが、意外と知らないことも多いのではないのでしょうか。アマミノクロウサギとは、どんな生きものなのでしょう。

かたがき

ぶんるい いち
分類(生物学的な位置づけ):

ウサギ目ウサギ科アマミノクロウサギ属

和名(日本語の名前):

アマミノクロウサギ

えいめい えいご
英名(英語の名前):

Amami rabbit [アマミ・ラビット]

学名(世界共通の名前):

Pentalagus furnessi [ペンタラグス・フルネスイ]



アマミノクロウサギはさまざまな法律で守られています

とくべつてんねんきねんぶつ
○ 国の特別天然記念物

がくじゅつじょうとく かち
[学術上特に価値が高いということをしめています]

こくないきしょうやせいどうしよくぶつしゆ
○ 国内希少野生動植物種

ぶんぶいき
[数が少なく分布域が限られており、しかも人間活動のせいで数が減ってきているということをしめています]

かんきょうしょう ぜつめつきぐいちびーるい
○ 環境省レッドリスト 絶滅危惧ⅠB類

しょうらい ぜつめつ きげんせい しゆ
[近い将来における絶滅の危険性が高い種であることをしめています]

れきし 歴史

| | |
|---------------|---------------------------|
| 1850 (嘉永3) 年 | 奄美の民俗をしょうかいした本「南島雑話」に登場する |
| 1896 (明治29) 年 | アメリカの人研究者が標本を採集して持ち帰る |
| 1900 (明治33) 年 | 初めて新種として記され、学問の世界で知られる |
| 1921 (大正10) 年 | 動物として初めて国の天然記念物に指定される |
| 1963 (昭和38) 年 | 特別天然記念物に指定される |
| 2004 (平成16) 年 | 国内希少野生動植物種に指定される |

なんとうざつわ えが
「南島雑話」に描かれた
アマミノクロウサギ



奄美文庫 第5号 挿絵で見る「南島雑話」
P.145ページ 挿絵を引用



どんな体をしているの？

アマミノクロウサギは「^{げんしてき}生きた化石」とよばれています。^{のこ}原始的なすがたを^{どく}残し、独自の進化をとげてきたアマミノクロウサギは、本州や四国、九州などに住むノウサギや、ペットとして飼われているアナウサギなどとはことなつた、ユニークな体のつくりをしています。

毛



そとがわ外側は茶色で内側はうちがわはいろ灰色になっています。

おとな
全長：380～515mm

なき声

「ピシー」と高い声でなきます。ほかのウサギ科の動物がなかないように進化したのは天敵に見つからないためといわれているので、なき声があるのはハブしか天敵がいなかったアマミノクロウサギの重要な^{とく}特ちょうです。

しっぽ

短いため、あまり目立ちません。

耳

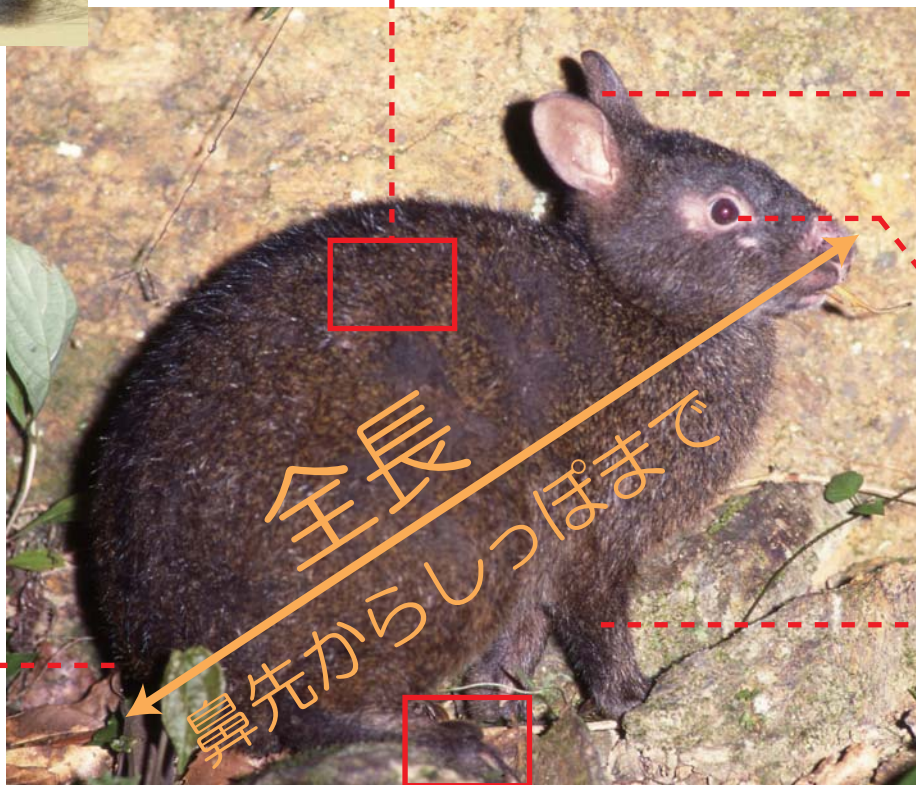
ノウサギに比べるとずいぶん短いのが特ちょうです。

目

ノウサギに比べて小さく、ライトがあたると赤く光ります。

手と足

短くがっしりとしています。



子ども



子どもは体や頭がまるく、おとなよりもふわふわした毛をしています。手足のつめはすでに大きく立派です。

つめ



がんじょうで、深いすべあなをほったり、きゅうしゃめん急斜面を上り下りすることができます。



あまのチェック ①

足さきに注目！



よく見ると足さきや体の一部の毛が白いアマミノクロウサギもいます。



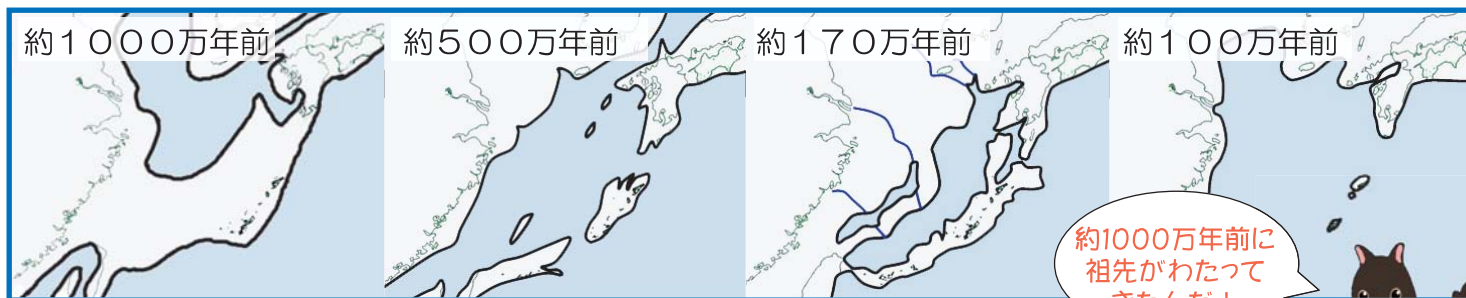
なぜ奄美にしかいないの？

アマミノクロウサギは奄美群島^{あまみぐんとう}だけに住んでいる「固有種^{こゆうしゆ}」です。ではなぜアマミノクロウサギは世界中でここだけにしか住んでいないのでしょうか？それは島の成り立ちが関係しています。

あまみぐんとう れきし 奄美群島の歴史

奄美群島は昔、大陸と陸続きになっていた時代があり、アマミノクロウサギの祖先はその時代にわたってきました。その後、大陸とつながったりはなれたりを何度かくり返し、100万年前には島になりました。アマミノクロウサギはこうして奄美群島^{あまみぐんとう}に取り残され、独自の進化をとげてきたのです。

■島の成り立ち



アマミノクロウサギが生息しているのは、奄美群島^{あまみぐんとう}の中でも奄美大島と徳之島^{とくし}だけです。これは、約100万年前に海の水位が上がり、アマミノクロウサギの先祖が高い山のある奄美大島と徳之島に移動したためと考えられています。一方、海にしずんだ土地はサンゴ礁が発達して、喜界島・沖永良部島・与論島になりました。



■約1万年前～現在

奄美群島^{あまみぐんとう}が現在の姿になったのは約1万年前です。そして、今現在も生きものたちの進化は続いています。



沖永良部島(住吉のクラゴー)
島に点在するホー(川)は、島民の生活をうるおす貴重な水源となっていました。



奄美大島(住用川上流部)
高い山がちなっており、奄美群島の中でも動植物の種類が一番多い島です。



喜界島(百之台)
世界有数のスピードで隆起しています。



徳之島(上空から)
高い山と平野が広がり、多くの動植物がいます。



与論島(上空から)
平地が多く、美しいサンゴ礁に囲まれています。

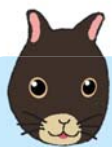
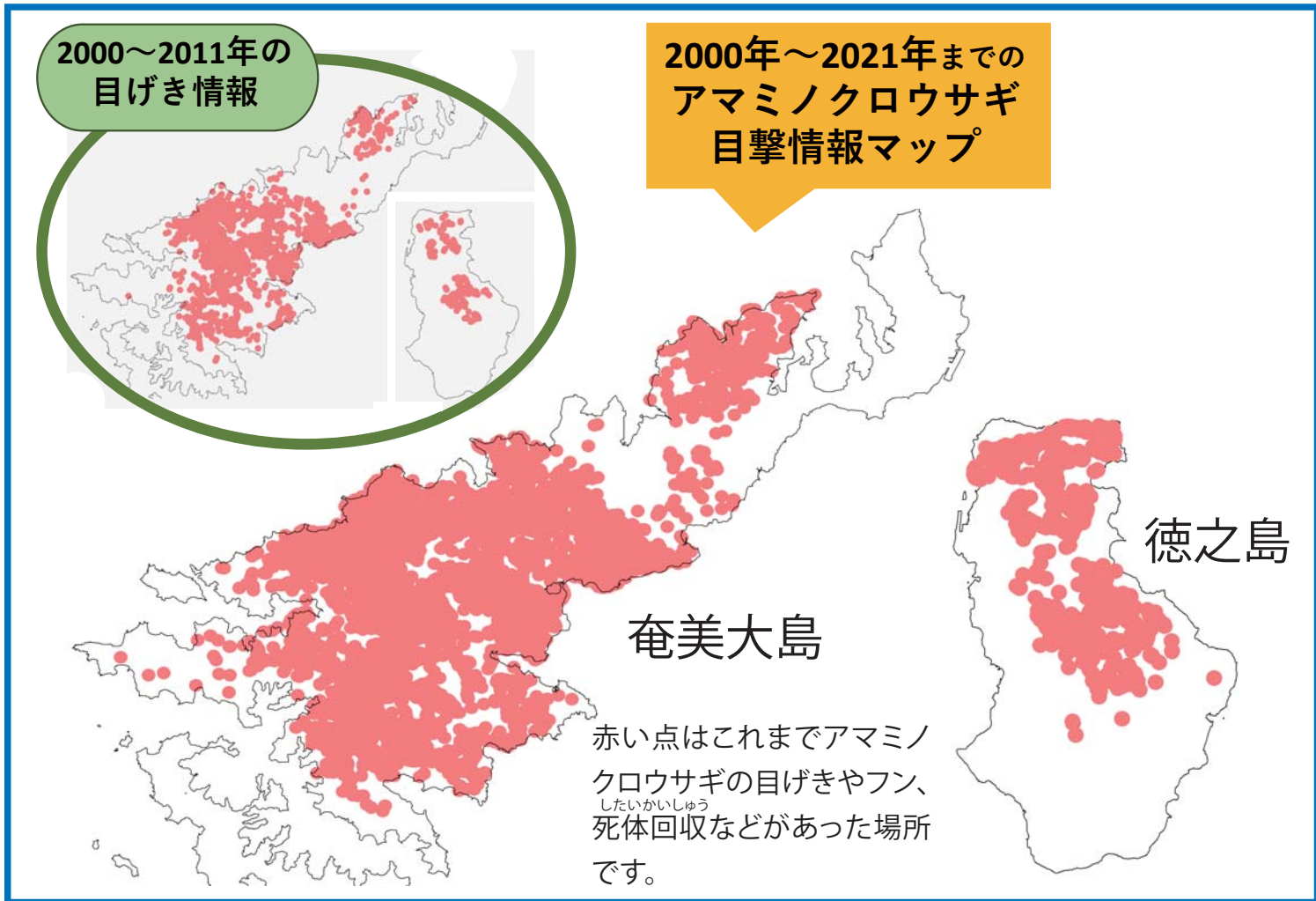


島のどこにいるの？

あまみやせいせいぶつほご
奄美野生生物保護センターでは、アマミノクロウサギの目げき地点やフンの分布、
死体が見つかった地点など、生息に関するさまざまな情報を集めています。これら
の情報をまとめて地図にのせると、アマミノクロウサギがどのような場所に生息し
ているかがわかります。

2000～2011年の
目げき情報

2000年～2021年までの
アマミノクロウサギ
目撃情報マップ

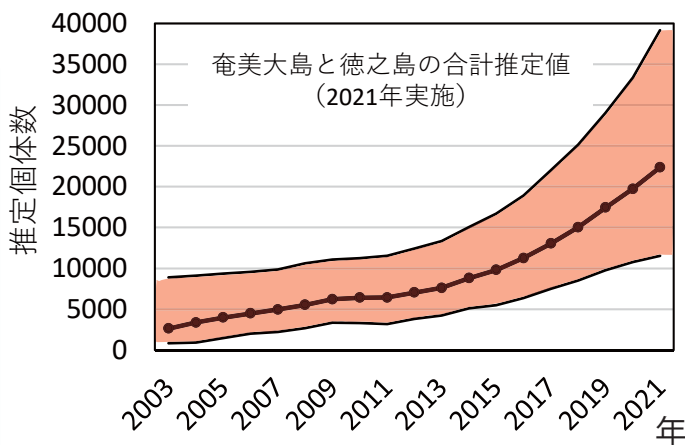


アマミノクロウサギは何頭生息しているの？

さわちようさ じどうさつえい
沢調査や自動撮影カメラなどのデータから個体数を推定したところ、奄美大島で10,000～34,400頭、徳之島で1,500～4,700頭いることがわかりました(2021年現在)。

すいていすう ぞうか
過去からの推定数を見ると、近年急に増加してきたことがわかります。マンガース対策やノネコ対策によって、生息状況や分布が回復してきています。

アマミノクロウサギの推定個体数の推移



赤色の幅は推定個体数のばらつきを表します。
真ん中の線は推定個体数の中央値です。



どんなすみかに住んでいるの？

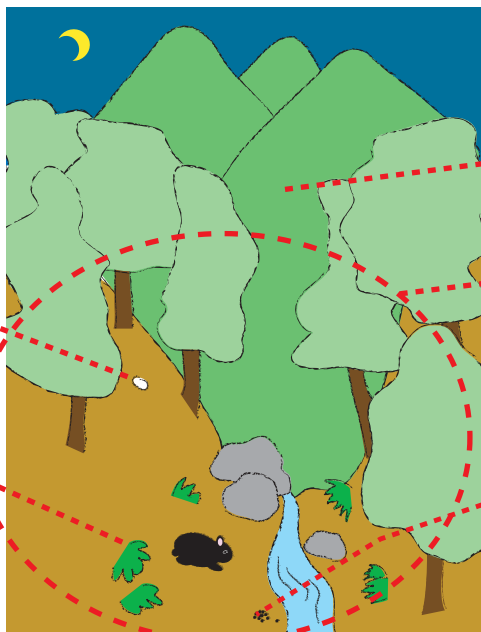
アマミノクロウサギのすみかは森の中の斜面などにほったあな、岩のすき間や木の根元のあななどの「^す巣あな」です。巣あなには休けい用と子育て用の2種類があります。アマミノクロウサギは主に夜活動し、巣あなを中心に2～3ヘクタールの範囲で生活していると考えられます。



昼間は巣あなで休けいしていて、夜になると活動するんだよ！

巣あな
谷の斜面に作る
ことが多い

食べもの
シダ類など



しょうようじゆりんない
照葉樹林内

こうどうはんい
行動範囲
2～3ヘクタール

フンをする
開けた場所

休けい用の巣あな

昼間に休けいしている巣あなの中は、外と比べると5～9℃の気温差があり、夏はずずしく、冬は暖かく過ごすことができるようです。

巣あなに入る様子



■ 巣あなの中はどうなっているの？

入口は、高さ、はばとも15cmくらいとせまいですが、おくは深く、約2mも続いています。おくには広い空間があり、アマミノクロウサギはそこで休けいしています。

特しゆなカメラでのぞいてみたよ。入り口はせまいけど、おくは深くて広くなっているんだね！



世界初！！
巣あなの中の
アマミノクロウサギ
の写真！！



約2m

子育て用の巣あな

アマミノクロウサギはとてもユニークな子育てをします。休けい用の巣あな以外に子育て用の巣あなをもち、その中で子どもを育てるのです。ではアマミノクロウサギの子育ての様子を見てみましょう。



■ 入口をふさぐ



母親は巣あなからはなれるとき、入口を土でふさぎ、子どもは中で1匹ですごします。入口をふさぐのは子どもをハブなどの敵から守るためと考えられます。

子どもは巣あなの中で育つんだよ！



■ 2日に1回の親子のふれあい



母親は2日に1回、だいたい決まった時間におちちをあげにきます。はじめは穴の中ですが、子どもが大きくなると巣あなの入口でおちちをあげます。子どもは1か月から1か月半たつてようやく巣あなの外を散歩するようになります。

巣あなの前に設置した自動さつえいカメラでとられた子育ての様子。



子どもを産む時期

飼育下では秋～冬・春に子どもを産んだ例がありますが、野生下では1年を通していつ子どもを産むのか、わかっていませんでした。そこで奄美野生生物保護センターでは、子どもの産む時期を知るための調査をしています。

■ フンからわかる子どもが産まれる時期

子どもは1ヶ月から1ヶ月半たつと、巣あなから出て親とっしょに行動します。子どもの小さなフンがどの時期になると見られるかを調べることで、子どもの産まれる時期を推定できます。その結果、

出産期は、ほぼ1年中である可能性が高い。

一番多く産まれる時期は11月から1月。

ということが、わかりました。
(子どものフンについては10ページ参照)





何を食べているの？

アマミノクロウサギの食べものはさまざまな種類の植物です。1年を通じて緑の生いしげる奄美の森の幸に、アマミノクロウサギは支えられて生きています。

食べもの

アマミノクロウサギが食べた植物の一部をしょうかいします。葉・くき・種・木の皮など、いろいろな部分を食べています。ここでしょうかいした以外の植物も食べています。



シイの実



シダの仲間



ススキ



ヤマビワソウ



ホソバワダン



ハママンネングサ



ツルソバ



ポタンボウフウ



エゴノキ



ノボタン



イイギリ

木の皮が、地面から60cmくらいの高さまで、かじられていることもある。

木の皮をかじり取った歯のあとがしっかり残っている。



奄美大島や徳之島では、タンカンの樹皮をかじられる被害が起こっています。



タンカン



あまのチェック

どんな歯をしているの？



食べたあと

前歯の2本はノミ状になっていて、これで食べものをかみ切ります。



ノミ けず 工具として木を削るのに使われます。



どんなフンをするの？

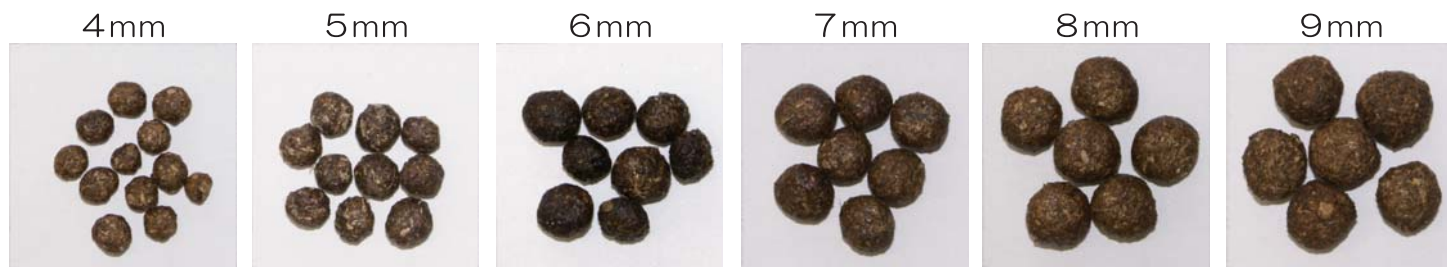
食べ物を食べればフンをします。アマミノクロウサギのフンはどんな形で、どこで見られるのでしょうか。

フンのかたち

アマミノクロウサギのフンは「まる」が基本的な形きほんてきですが、食べるものや体調によって変わるようです。



■ 子どものフンの大きさ (実物大)



フンをする場所

見通しがよく、開けた林道や川原でよくフンをします。



あまのチェック

アマミノクロウサギのフンがささ支える生態系せいたいけい

フンはいろいろな生きもののえいようげん栄養源となっています。フンを利用してりよういる生きものを見ましょう。



①ヤマナメクジ ②オオシマケマイマイ ③オオシマセンチコガネ ④アマミセマダラマグソコガネ ⑤ヒトヨタケの仲間 ⑥キノコの仲間 ⑦カビの仲間

※③はリュウキュウイノシシやアマミノクロウサギなどのフンを食べ、④はアマミノクロウサギのフンのみを食べる。そのため、④はアマミノクロウサギが生息している場所せいそくで見られず。



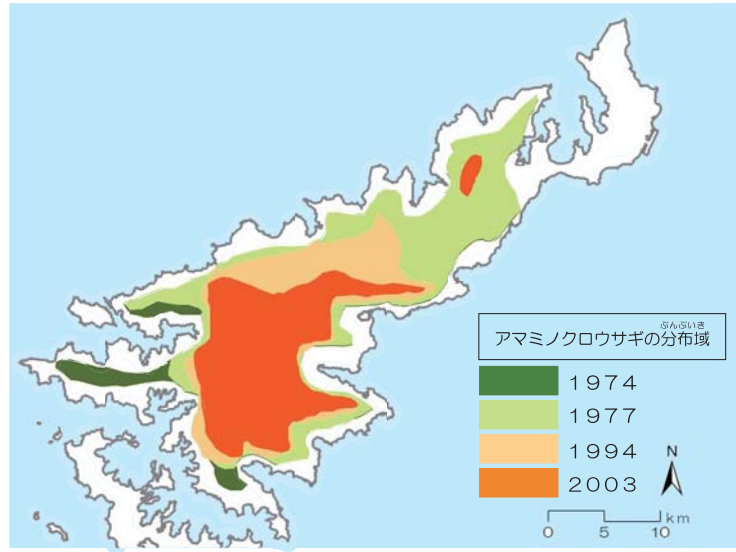
アマミノクロウサギが減った原因

奄美大島のアマミノクロウサギは、かつては島内のほぼ全域で見ることができましたが、さまざまな原因によって数が減ってしまいました。これらの原因はわたしたち人間の活動によるものでした。

奄美野生生物保護センターをはじめ、奄美大島の人たちは、アマミノクロウサギやほかの野生動物を守るために、これらの人間の活動の影響を減らすための対策をおこなってきました。

アマミノクロウサギが減った原因のうち
人間の活動による影響が大きいもの

- 大規模な森林伐採
- マングースによる被害
- ノイヌ・ノネコによる被害
- 交通事故



森林伐採による被害

森林伐採は、アマミノクロウサギなど多くの生きものたちのすみかをうばいます。また、森林伐採によって流れ出した土はサンゴ礁に被害を与えます。しかし、林業は私たちの生活に必要な活動でもあります。

生きものたちへの影響が大きくなるような森林伐採や土地の利用がおこなわれるように、しっかりと管理する必要があります。



こんぜつまちか マンガースは根絶間近！

奄美大島のマンガースは、ハブを退治するため、1979年に名瀬の赤崎公園でおよそ30頭が放されました。その後、マンガースの数は増え、住む範囲も広がってきました。マンガースがいるところでは、もともといた生きもの(在来生物)が少なくなったり、農作物が食べられたりするようになりました。

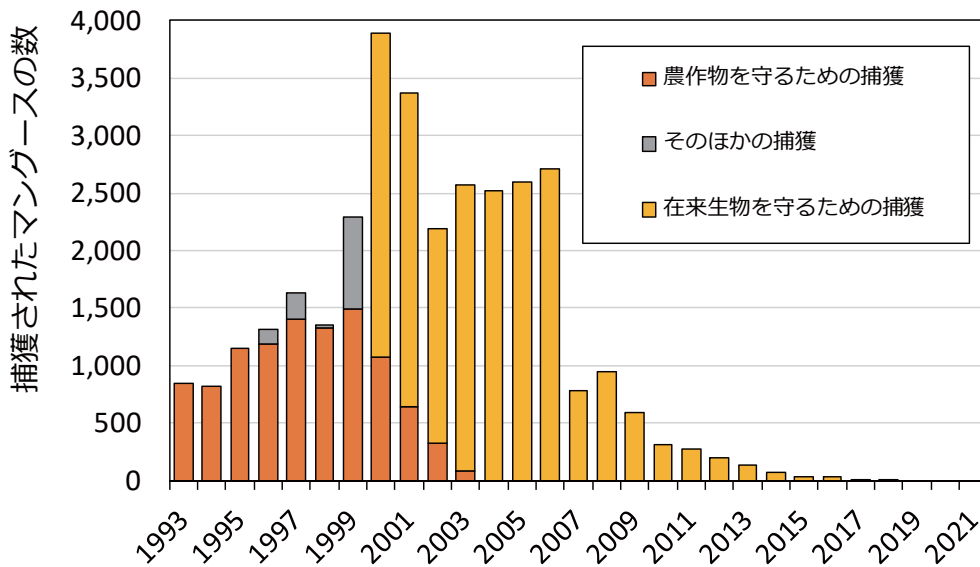


フイリマンガース

分類: 食肉目マンガース科
分布: インド・東南アジア
食性: 雑食性

19世紀に、サトウキビ畑を
あらすネズミなどを退治す
るために、世界各地に放さ
れました。在来生物を食べ
生態系に大きな影響をあた
えることが問題になり、世界
中で駆除が行われています。

マンガースは1999年ごろには1万頭くらいが奄美大島にいたと考えられています。1993年から農作物を守るための捕獲が、2000年から在来生物を守るための捕獲が始まりました。2005年からは奄美マンガースバスターズによる本格的な捕獲が始まります。一時は山の奥まで3万頭の捕獲わなが設置されて捕獲が進みました。マンガースを探す探索犬と一緒に山に行つての捕獲も行われました。捕獲数はどんどん減ってきて、マンガースの根絶も間近です。



ただ、マンガースも元は人が連れてきたということを忘れてはいけません。人が島に連れてこなければ在来生物も食べられずにすんだし、マンガースも捕獲されることはなかったのです。私たち人間が島の在来生物のことをきちんと考えてあげられなかったために、たくさんの命が失われてきたことを忘れないでください。

ひがい ノイヌ・ノネコによる被害

しゅりようよう 狩猟用やペットとして飼われていたイヌ・ネコがすてられたり迷子になったりして人の手をはなれ、野生化し、
つね 常に山の中で野生生物を食べているものを「ノイヌ」「ノネコ」と呼びます。もともとアマミノクロウサギにとって
てんてき 森の中の天敵はハブでしたが、ノイヌやノネコのようなハンターにねらわれれば、逃げきれる能力はのうりよくありません。



ひがい ■イヌやネコによる被害

かい いでんしけんさ 解ぼうや遺伝子検査によって、イヌやネコによって
ほしよく 捕食されたと判断された死体が毎年確認されています。しかし、多くの死体は森の中で食べられてしま
かくにん って確認できないため、もっと多くの個体が食べら
こたい れていると考えられます。

■フンを調べる

りんどう 林道に落ちているノイヌ・ノネコのフンを調べる
ことによって、どんな生きものが食べられているか
けっか きしょうしゅ を見てみました。その結果、希少種が多く食べ
られていることがわかりました。

87個のノイヌ・ノネコのフンを調べてみました。
その結果、下のグラフでしめしたような動物の
けっか 体の一部がフンの中から見つかりました。
数字はその動物が確認されたフンの個数です。

アマミノクロウサギ以外の
動物たちにとっても、
ノイヌ・ノネコは
とてもかわいい存在なんだ！

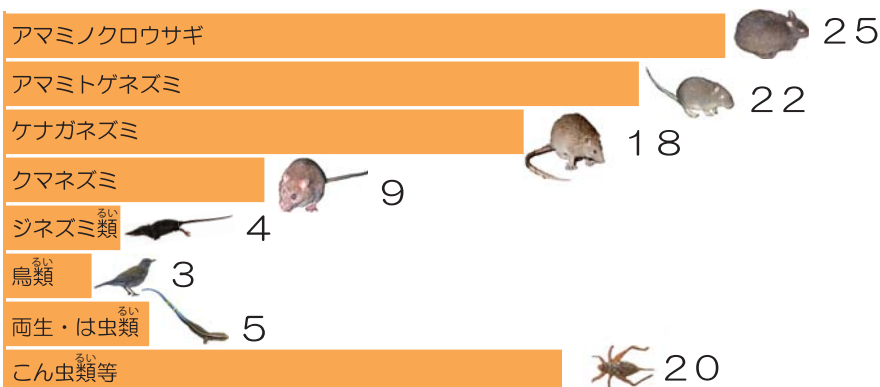
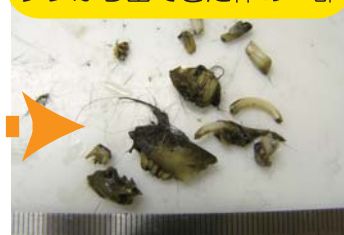


道路上で発見された死体。解ぼうの結果イヌ・ネコによる捕
さつ 殺と判定された。

林道にあったフン



フンから出てきた体の一部



こうつう じこ ひがい 交通事故による被害

アマミノクロウサギをはじめ、多くの野生動物が交通事故にあっています。特に、交通量が多くスピードも出しやすい国道や県道で事故が多く発生しています。アマミノクロウサギは沢などの開けた場所でエサを食べたりフンをしたりする習性があるため、道路に出てくる場合があります。そのような場面で、不幸な事故が起ってしまうのです。

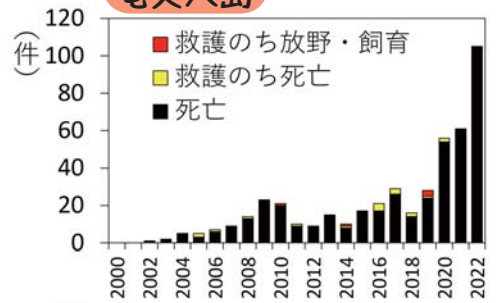


死体からわかること

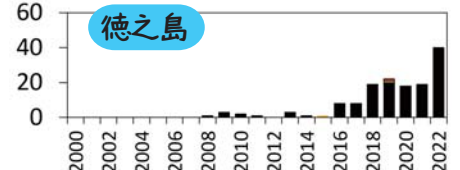
あまみやせいせいせいぶつほご
奄美野生生物保護センターに運び込まれた死体は、かい
解ぼうし、死んだ原因を調べています。

道路上で発見された死体の多くは交通事故によるもので、アマミノクロウサギだけでなく、ケナガネズミやアマミヤマシギなども多く事故に遭っています。

奄美大島

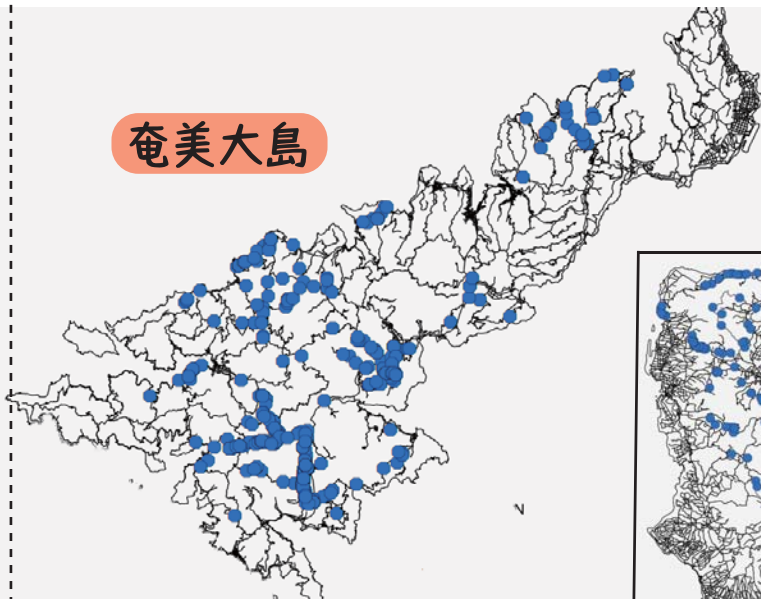


徳之島



アマミノクロウサギの交通事故発生件数

奄美大島



徳之島



アマミノクロウサギの交通事故発生地点 (2000年~2021年)



ちゅういかんばん
こんな注意看板を見つけたら、スピードを落として周りに注意しながら走行してね!





守るためにどうすればいいの？

さまざまな原因で数が減ってしまったアマミノクロウサギ。奄美野生生物保護センターでは、島内の人たちといっしょに、アマミノクロウサギを守るための保護の取り組みをおこなっています。

森林の利用を管理する

奄美群島国立公園



アマミノクロウサギがすむ森は、2017年3月、奄美群島国立公園に指定されました。国立公園では、大規模な伐採や開発が制限され、生きもののすみかが守られることになります。

マンガース・ノネコを減らす

奄美マンガースバスターズ



マンガースを駆除するために、2005年にマンガースをつかまえる専門のチーム「奄美マンガースバスターズ」ができました。奄美大島からマンガースを完全に排除することを目標に活動しています。

探索犬

駆除が進むにつれてマンガースの生息密度が低くなり、わなでつかまえることがむずかすくなってきました。そこで、より効率的にマンガースを駆除するために、探索犬を導入しています。探索犬はマンガースをつかまえるのではなく、マンガースのフン・こんせきを見つけ、それをハンドラーに教える役目を果たします。



※ハンドラーとは…犬をあやつる人

奄美大島ノネコ管理計画

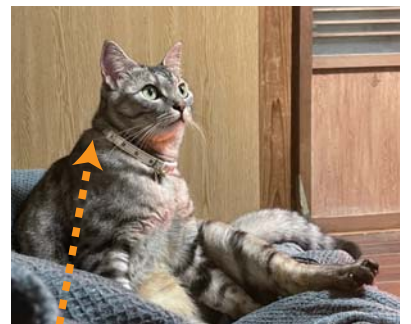
奄美大島の在来種を守るために、山でのノネコの捕獲とノネコが産まれないための根本的な対策をおこなっています。ネコを飼うときは住んでいる市町村の飼い猫条例を守りこれ以上山にネコがいかないようにしましょう。

ペットの適正飼養

ネコに限らず、ペットを飼うときは最後まで責任を持ってたいせつに飼いましょう。ペットを野外に放すことは、犯罪です。また、奄美群島の自然をこわす可能性がありますので絶対にやめましょう。



マイクロチップがあれば、まいごになった時にも安心だよ！



たいせつに飼育されている保護猫



首のうしろの皮下に入れる

※マイクロチップ・・・15ケタの数字が記録されていて、せん用のリーダーで読み取ることができる。電池は不要で、半永久的に使える。動物病院で入れてもらえる。

※2022年6月に動物愛護管理法という法律が改正され、販売されている犬や猫について、マイクロチップの装着が義務化されました。なお、保護猫については努力義務になっています。

こうつう じこ ぼうし 交通事故を防止する

■ 注意を呼びかける

アミノクロウサギの交通事故を防止するため、住民や観光客に安全運転を呼びかけるキャンペーンや看板の設置をおこなっています。

■ お互いの安全のために

車のスピードを落させる減速帯やウサギのとびだし防止ネットの設置をおこなっています。



こうつうじこ ぼうし
交通事故防止キャンペーン



いどうしきかんばん
移動式看板

きゅうご 救護する

事故などで負傷したアミノクロウサギが見つかった場合、動物病院などに運んで診察・治療をしてもらいます。救護のため一度収容されたアミノクロウサギが野生復帰していくのは、簡単なことではありません。救護にかかる費用の一部は、奄美野生生物保護基金という寄付金からなる基金を使用しています。



こうつうじこ
交通事故にあったアミノクロウサギ

知ってもらおう

奄美の自然について知ってもらうために、小中学生にお話をしたり、シンポジウムや企画展を開いたりしています。



ふうけい
出前授業の風景

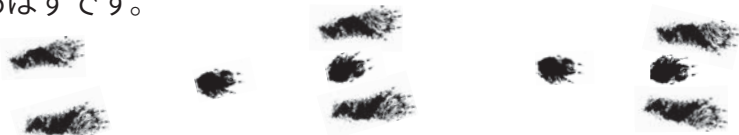


きかくてん ようす
企画展の様子

わたしたちにできること

なぞにつつまれていたアミノクロウサギの暮らしぶりも、多くの人々が調べた結果、少しずつわかってきました。同時に、アミノクロウサギの生存をおびやかす問題に対しても、解決のための取り組みが進められています。

アミノクロウサギを守るために、私たちにできることはなんでしょうか。まず、この冊子などを利用してアミノクロウサギについてよく勉強してみましょ。それから、アミノクロウサギがなぜ減っているのか、どうすれば減るのをとめることができるのか考えて、話し合ってみましょ。私たちにできることがきっと見つかるはずですよ。





おまけ

あまみぐんとう 奄美群島の生きものたち

あまみぐんとう
奄美群島にはアマミノクロウサギ以外にも多くの野生動物が生息・生育しています。「固有種」
あまみぐんとう
が多く見られるのも奄美群島の特ちょうです。独自の進化をとげてきた、美しくユニークな生き
あまみぐんとう
ものたちをしょうかいします。

- 絶滅危惧ⅠA類
- 絶滅危惧ⅠB類
- 絶滅危惧Ⅱ類
- 準絶滅危惧種
- 国内希少野生動物種
- 国の天然記念物
- 鹿児島県の天然記念物
- ▲ 参考：環境省レッドリスト2020

鳥類



◀ オオトラツグミ ▲▲●●
3～4月の繁殖期、夜明け前に「キョローン」とすんだ声でさえずる。
個体数が少なく、そのすがたを見ることはまれである。



▶ リュウキュウコノハズク
夜行性で、春から夏にかけての夜によくなく。大木の樹洞などを利用して繁殖する。



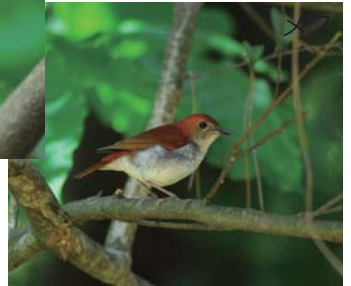
◀ ルリカケス (鹿児島県の県鳥) ▲
るり色と茶色の美しい配色をもつ。さまざまな鳴き声を出す。森林に生息するが、農耕地で採食することもある。



▲ アマミヤマシギ ▲●●
地上で活動することが多い。長いくちばしを地面にさしてこんで、中にいるミミズなどを食べる。



オス



▲ アカヒゲ ▲●●
コマドリ仲間。オスは顔からのどもと付近まで黒色。春に特ちょう的な声でさえずる。



◀ オーストンオオアカゲラ ▲▲●●
照葉樹林に生息しており、木の幹をつついて中にある虫を食べる。繁殖期には、木を連続してつづき大きな音を出す(ドラミング)。



▲ アマミサナエ ●
主に中・南部の山間の清流に生息する。林道整備や河川改修などで数が減っている。

◀ アマミミヤクワガタ
標高200m以上の山地に生息している。人とられ数が激減している。

こん虫類

両生・は虫類

▼ アマミイボイモリ ▲▲●

アマミノクロウサギと同じように古いすがたを残し、生きた化石とよばれる。ろっ骨がはりだしているのが特ちょう的。



◀ アマミシカワガエル ▲▲●

奄美大島と沖縄島に住む。緑地に金色のはん点があり、日本で一番美しいカエルと言われている。

▼ ケナガネズミ ▲▲●

日本で最も大きいネズミ。しっぽが長く、先が白い。木の上で生活している。



▲ アマミハナサキガエル ▲●

スマートな体形をしており、後ろ足が長く大きくジャンプする。体色は緑、茶色などで、コケや落ち葉の上では見つけにくい。



▲ オットンガエル ▲▲●

奄美大島だけに住む。「オットン」とは島の方で大きいという意味で、体長が約14cmにもなる。

▼ オオシマウツギ

林のはしに生える。星型の花が集まってさく。花期は3～4月。



ほにゅう類



▲ オリイコキクガシラコウモリ ▲●

屋間はどうかつの中で休んでおり、日があしむと外にでてエサをさがす。一晩の間に自分の体重の約3分の1にもなる量のこん虫を食べる。



▲ アマミトゲネズミ ▲▲●

背中^{せまひ}にトゲのようなかたい毛があるところが名前の由来。ハブのこうげきをジャンプでかわす。徳之島には別種「トクノシマトゲネズミ」が生息^{せいそく}している。

植物

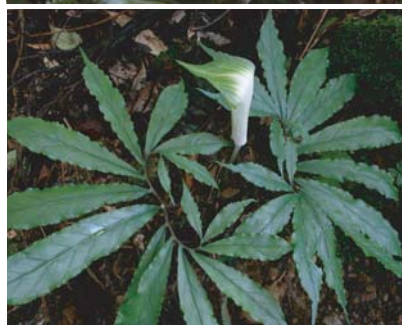


◀ アマミエビネ ●

林内に生え、高さは40cmほどになる。人とられ数が激減^{げきげん}している。花期は3～4月。

▼ アマミセイシカ ●

さわぞいに生える。人とられ数が激減^{げきげん}している。花期は3～4月。



▲ アマミテンナンショウ ●

林内に生える。葉が左右対しょうで、つつ状の苞(ほう)の中に花がある。花期は1～3月。

